

6月20日開催

第1回G-NETほっとセミナー

日本のジェンダー問題の

核心を問う



藤野教授

日本のジェンダー平等の遅れの理由と私たちの課題・展望について、京都産業大学教授の藤野敦子さんにお話をいただきました。現在の日本人の無意識のバイアスは、男性が家を継ぐ、年長者に従う、などの『家族観』によって作られていると考えられます。

日本のジェンダーギャップ指数は15.6か国中120位と低いにありますが、欧米諸国は、かつて日本以上に不平等でした。自由平等の問い直しが始まり、意識を実践に移し、女性の自由・権利を求める運動が広がる中で、ジェンダー平等へ螺旋状に変化していききました。

ジェンダーの問題は、意識が変わったとしても、構造そのものは変わらないため、無意識を意識化し、実践していくことの重要性について学びました。

6月12日開催

第1回ユースリーダーセミナー

SDGsを学び、考える



本年度もユースリーダーセミナーを開催しました。滋賀県立大学地域共生センター地域連携コーディネーターの谷口嘉之さんをお招きし、SDGsについて基礎から学びました。

SDGsは17全てのゴールが関連し合っていることを学んだら、身の回りの「当たり前」としていたことに気づき、必要であればその当たり前をなくしていくことの必要性について考えたりしました。ジェンダーの問題についても、「当たり前」となり、問題に気づかないことも多く、大切な視点を与えていただきました。

7月30日開催

デートDVの防止啓発セミナー(教職員さんかく講座)

被害者の視点で考える教育



おやこひろば桜梅桃李代表の柳谷和美さんをお迎えして、被害者の立場、支援者の立場の両面からデートDV、性暴力などについて、自身の被害経験も交えてお話しいただきました。被害者が声を上げにくい理由や、自身を責める気持ちなど、被害者の立場について熱く語っていただきました。性暴力については、被害を受けているにもかかわらず、相手を責めるのではなく自分を責めてしまうことや、様々な二次被害に苦しんでこられました。性被害をなくすためには、年齢に応じた正しい性教育が必要であり、正しい知識をもつことで加害を減らすことができますと教えていただきました。

デートDVについても、基礎知識とともに、支配・被支配の関係から抜け出せないことを、自身の体験からお話しいただきました。デートDVの被害者は、安全・安心・自信・成長を奪われて恐怖や諦めにより、抜け出すだけの気力や判断力を奪われず、抜け出せたとしても大きな心の傷が残ってしまいます。

「今の社会は(学校も)、加害者の声を尊重しすぎ、被害者の声が消されている部分も多くありません。」(柳谷先生より)

講座REPORT

第1回5月13日 第2回7月8日開催

相談員スキルアップ講座

相談者に寄り添うために



石田弁護士

第1回講座は、滋賀県公認心理士会代表理事の鈴木葉子さんに、相談業務の基礎となる傾聴についてお話しいただきました。ロールプレイを交えて、実践的な学びにもり傾聴のスキルを高めることにも、すぐに日々の業務に生かせる学びとなりました。

第2回講座は、弁護士の石田達也さんに、DVや離婚に関する法律と具体的な支援についてお話しいただきました。DVによる離婚の具体的な事例をもとに、相談員としてどのように考

え、関わっていくのかについて、参加者同士の意見交換をすることで学びを深めることができました。

どのような事案であっても、一番の弱者は誰か、その弱者をどのように守るのかということを最優先に考えておられる先生の熱い思いが強く伝わってきました。

第1回4月23日 第2回7月9日開催

市町男女共同参画担当職員研修



第1回講座は、ミューストリム代表の勝身真理子さんに、「ジェンダーギャップ解消への加速〜ジェンダー主流化へ〜」をテーマに男女共同参画について広く知識を得るため、国の第5次男女共同参画計画をもとにお話しいただきました。

第2回講座は、福井県立大学教授の塚本利幸さんに「統計・アンケート調査等エビデンスベースによる男女共同参画計画等の策定について」をテーマにお話しいただきました。データをもとに正しく現状を把握・認識すること、必要な施策を打ち出せることを学ぶとともに、福井県での男女共同参画に関する様々なデータの分析の実例についても示していただきました。

この2回の講座で、広く知識を得ること、現状を正しく把握することで、実践すべきことが明確になることを学びました。



塚本教授

TOPIX

デートDVの現状を知る

デートDVという言葉聞いたことがあるでしょうか。デートDVとは、交際中のカップルの間に起こるDVのことです。あまり聞きなじみのない言葉かもしれませんが、若者の間で大きな問題になっています。

DV(デートDV)といえば、主に身体的暴力をイメージする人が多いかと思えます。DVは支配・被支配の関係にある状態で、①身体的暴力②心理的暴力③経済的暴力④性的暴力の4つの暴力を受けている割合は3人に1人となっていて、とても身近な問題です。女性の4割以上が被害にあっています。女性ばかりが被害にあうと考えている人も多いですが、男性も高い割合で被害にあっています。加害意識については、被害の意識よりも低く、自身のデートDV加害に気づいていないことが多いのです。

このように、身体的な暴力以外の暴力を受けていても、それを暴力と気づかないことで、デートDVの問題は大きくなってしまいます。デートDVには、相手がいつもピリピリとした態度になるイライラ期、怒りがコントロールできなくなり暴力を振るう爆発期、その後、一転して優しくなる

ラブラブ期のサイクルがあると言われてます。このサイクルが繰り返され、激しくなることで逃げ出す気力が失われ、抜け出すことが難しくなります。

デートDVの関係においては、支配・被支配の関係がつくられます。このような関係に陥らないためには、正しい知識を持つことが大切です。いち早くデートDVの関係に気づき、抜け出せる知識を身につけ、相談相手を見つけておくことが必要です。お互いに、より良いパートナーシップを結べるよう、自分らしさを保ちながら、お互いに成長できる関係を築けるようにしてください。

